聖師ご聖誕百五十年

波瀾縦横の生活

本年は聖師さまが明治四年八月二十七日（旧七月十二日）、現在の亀岡市曽我部町穴太でご聖誕になって百五十年の佳節に当たる。聖師さまのお写真や略年譜を通して尊いご生涯を振り返り、おしのびしたい。

秘伝の鎮魂の巻物を手にされる聖師さま（明治34年）

◆聖師さま略年譜◆

【明治】

4・8・27（旧7・12）上田吉松の長男（幼名・喜三郎）として現在の亀岡市曽我部町穴太に生まれる

11 偕行小学校へ入学。漆にかぶれ休学中、祖母・うのより言霊学を学ぶ

13 健康を回復し、一年で二学年進級する

16・3 同小学校の代用教員として教壇に立つ

18 丁稚奉公を勤める

26 園部で獣医学を学ぶ。この頃、国学者・岡田惟平翁より敷島の道を学ぶ

29・1・1 穴太で精乳館を経営

30・7・21 父・上田吉松昇天

31・3・1（旧2・9）高熊山で一週間の霊的修行を行う

32・7・3 参綾、大本入り

8・1 金明霊学会設置

33・1・1 後の二代教主・出口すみこと結婚

7・4（旧6・8）冠島開き

8・2（旧7・8）沓島開き

9・1（閏8・8）鞍馬山へ出修

34・4・26（旧3・8）元伊勢お水のご用

精乳館を営まれていたころ。上田喜三郎として現存する唯一の写真（明治29年・写真右）／責付出獄中の聖師さまは秘密裏に日本を出発され、モンゴルからエルサレムを目指された（大正13年・写真上右）／坤（ひつじさる）の金神に扮する聖師さま（大正5年・写真上左）

出口家へ入籍されたころ

教服姿の聖師さま
（明治40年ごろ）

沓島開き後の記念写真。前列右から聖師さま、開祖さま、二代教主さま（明治33年）

38 7・12 （旧5・27）出雲火のご用
39 布教の旅へ
40・5・3 京都の皇典講究所で学ぶ
41・8・1 別格官幣社建勲神社主典となる
12 金明霊学会を大日本修斎会と改組
42・2・15 帰綾し、教団の組織化を進める
43・12・29 機関誌「直霊軍」を発行
出口家へ入籍し、出口王仁三郎と改名

【大正】
2・7・12 大日本修斎会会則を改め大本教則を発表
大本教と称す
3・8・15 機関誌「敷島新報」発刊
5・4・22 大本教を皇道大本と改称
10・5 （旧9・9）神島開き
6・2・1 大本神諭を「神霊界」誌に発表
全国宣教が本格化
7・11・6 開祖・出口なお昇天
8・11・18 丹波亀山城址（後の天恩郷）入手
9・8 日刊紙「大正日々新聞」入手
亀岡に大道場開設
10・2・12 第一次大本事件
6・17 責付出獄
8・10 機関誌「神の国」発刊
10・14 皇道大本を大本と改称
10・18 『霊界物語』の口述を始める
12・30 『霊界物語』の刊行が始まる
12・6・28 エスペラントを採用し、大本エスペラント研究会発足（10月、大本エスペラント普及会と改称）
9・9 杓子（後のみ手代）を下付
11・4 世界紅卍会と提携
13・2・13 モンゴルへ
6・21 パインタラの遭難、帰国

霊界物語をご口述になる

第１回大本歌祭（昭和 10 年 10 月 31 日）

人類愛善会創立 10 周年記念大会で
ごあいさつになる（昭和 10 年）

第２次大本事件中、断髪直後
（昭和 11 年３月 11 日）

農業にいそしまれる（昭和６年６月 10 日）

七福神に扮する聖師さま。左から弁財天、福禄寿、恵比寿、毘沙門天、大黒天、寿老人、布袋（昭和８年９月 28 日）

7・7　『霊の礎』刊行
12・15　再び『霊界物語』を口述
14・5・20　世界宗教連合会を発会（中国・北京）
6・9　人類愛善会を設立
8・31　『道の栞』刊行
綾部は祭祀、亀岡は宣教の中心の聖地と定まる
10　「人類愛善新聞」「瑞祥新聞」発刊
15・2・1　楽焼（前期）の製作を始める
5　歌日記執筆

【昭和】

2・1・15　亀岡町（当時）中矢田農園入手、「大本理想郷農園」と命名
1・18　「明光社」を興す
5・17　第一次大本事件解消
3・3・3　五十六歳七カ月に達し、みろく大祭を挙行
3　人類愛善会講演会を全国で開催。この年、亀岡では月宮殿をはじめ諸種の建築物を竣成
4・10・12　朝鮮半島・旧満州を巡教
11・28　欧州本部をフランス・パリに設置（昭和８・12月閉鎖）
この年より、全国各地で出口王仁三郎作品展を開催
5・9・4　王仁三郎作品展の全国開催決定（同７年までに２７３会場）。人類愛善新聞社および人類愛善会東洋本部を亀岡から東京に移転
6・8　台湾へ巡教
12・29　還暦を迎え、更生祭を執行
中国の道院・世界紅卍会、救世新教悟善社、ドイツの白旗団、ブルガリアの白色連盟など、各国の精神運動団体との提携が進む
7・6・18　人類愛善会とラマ教との提携

水墨画をお描きになる

楽焼に絵付けをなさる
（昭和７年10月12日・明光社楽焼場にて）

未決監からお帰りの聖師さまと二代教主さま
（昭和17年）

瑞泉苑玉の井前で（昭和10年９月８日）

8・13　大日本武道宣揚会を発会
8・1・26　（旧正月）大本を皇道大本と改称
10・4　『天祥地瑞』を口述
9・7・22　昭和神聖会発会
6・3　『出口王仁三郎全集』刊行
「人類愛善新聞」が百万部を突破
10・10・31　第一回大本歌祭を行う
12・8　第二次大本事件勃発
11・5・18　両聖地の建造物を強制破却
15・2・29　第一審判決、治安維持法違反・不敬罪有罪
4・18　大阪北区刑務支所へ移監される
17・7・31　第二審判決、治安維持法違反無罪、不敬罪有罪（後に終戦とともに解消）
8・7　保釈出所
19・12・29　楽焼（耀盌）の製作を始める
20・9・8　大審院判決で上告棄却
10・17　大本事件解決、事件に関する一切の賠償要求の権利を放棄
12・8　第二次大本事件解決奉告祭・慰霊祭を執行
12・30　鳥取・吉岡温泉での聖師の談話が大阪朝日新聞に掲載される
21・2・7　愛善苑として再発足
5　山陰へ巡教
5・23　鉢伏山開き
7　紀州へ巡教
8・26　月の輪台築造完成。その後、病床に伏す
12・5　天恩郷の瑞祥館に移居
22　愛善苑は愛善生活・生産・食糧増産運動を推進
2・4　節分大祭を復活
4・23　祖霊社を復活
8・27　喜寿を祝い瑞生祭を亀岡で執行
12・8　新生記念祭執行
23・1・19　昇天（享年76歳５カ月）